



主体的に課題を解決したいから(その4)生徒集会

「天水町を見に行こう」での気付きまとめと、その発表(7月22日)

執行部・・・天水町商工会
 学級委員会・・・公文学習塾
 生活安全委員会・・・天水駐在所
 図書委員会・・・小天天子宮
 保健委員会・・・水本オレンジガーデン
 給食委員会・・・天水学校給食センター
 体育委員会・・・玉水保育園
 放送委員会・・・来照寺
 環境委員会・・・町内各所



各発表を聴くことで課題意識を共有できました。

生徒集会で済ませるのはもったいないほどの高いレベルでした。家族や地域の方々、特にインタビューを受けてくださった方々にも見て聞いていただきたいほどでした。どの報告も相手意識を持って簡潔明瞭に説明してくれました。

主体的に課題を解決する姿勢は、当事者意識のある証拠です。当事者意識のある人は課題に対して不平・不満を口にする事なく、その課題に対して自らどう関わり、どう解決を図っていくのかという姿勢で臨みます。そうした姿勢でこそ「ふるさと天水の良さに気付き、たくましく未来を切り拓く生徒」が育成できるものと考え、本校の研究を進めています。今回の発表はその着実な布石となっています。

5年間ものあふれる思いが涙となって・・・

上記の集会に引き続き、モーガン先生の送別会を行いました。

モーガン先生のあいさつでは、天水中生徒に対する期待が心から伝えたいこととして語られました。それらは、①勇気を持って優しくすること、②人生を楽しむこと、③短期間でもいいから日本を離れ、異文化を体験し世界中の人々がどんな生活を営んでいるのかを学ぶこと、そのことを通して自分自身を見直すことなどでした。

生徒さんたちにとってモーガン先生の前でスピーチをすることは最も価値ある体験であり、モーガン先生とのコミュニケーションは英語を学ぶ意欲を促進するものだと考えます。そうした意味でモーガン先生の存在は日本とアメリカ合衆国との橋渡しであること、また今後の活躍を期待するところから「JET 絆大使(注)」とされます。

私からは最後にマララ・ユサフザイさんの国連本部でのスピーチ(2013年7月12日マララ・デー)から次の文章を紹介しました。

一人の子供、一人の教師、一冊の本、そして一本のペンが世界を変えられるのです。教育以外に解決策はありません。教育こそ最優先です。



(注)「語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)」を終了するJET参加者を、我が国及び勤務した各地域と、母国との友好関係推進の「絆」としてJETプログラム終了後も活躍してもらうことを期待し、「JET 絆大使」として総務省が任命しているものです。